

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

○上溝村

里長

傳左衛門  
伊左衛門

○上溝

美波

邑ハ大森の西猿田の南ナリ  
郡邑記云、

惣名ニ唱ク此末支郷ノ中野村ニ上溝村ハ可唱也ト見ユナリ

○晝河

郡邑記云、家負十軒天正年中越前ニ云者居処ニ清水存リ

保呂羽權現晝河の処ナリト云除地七十町有テ大友

治部少輔、祭礼供米ニ納ムト見ユ今家四戸あり内一

戸ハ社家大友氏ニ

○白山比咩社 祭日四月朔日 社司大友兵治

○岩寒泉 シツ 泉 シツ 奥ニ在リ ○晝川 シツ 川 シツ 末ニ在リ

○杉清水 シツ 水 シツ あり白山祠官大友氏の門田の畔古木、杉の下

ニ在リ泉ナリ シツ 霊水 シツ あり郷人朝夕汲ム シツ お清田よりあり



保呂山の神田より白山祠官大友氏より此あり一ねと貢り  
神供米とせり。○御西田よりあり二西島海山東島海山雄勝郡をこねねや  
はまたをろのみや從三位勲五等大物忌神の神田とて佐々木  
治惣三郎が佃一校の小田此佐々木の翁は文化六年の秋  
觀音寺山より久安五年の経同振をし屋戸の翁之此ゆゑも觀  
音寺村のくぢりよりあり一ね 畫飯山俚言は畫食森  
よりいより島よりあり一畫川の流に在りて島なり此ありぬ  
りの田畠の字を島巡ともあり童のあり物語より一ね姫宮  
みよりあり一ねへ給ひて此島より三人ひちを曲けて登寢し給ひて  
弟姫のさく夢覺て保呂羽山領より飛去て神となり給ひあり  
中姫夢覺て御嶽山より飛行て神となり給ひありと云ふ大柳君  
やより夢覺て北山より飛て八十二階此咩とある給ひ今の白山

姫の社は是よりあり此の語り秋田郡勝比良の畫寢山のものが  
りみいとし畫飯山より畫寢山より云々のいふものかめより塚に  
多く亡目撃を埋し塚と云ひ一と云ふことあり保呂羽山へ御神  
幸の神輿をす奉りしをふと御座處に其形の塚の如きあり  
をこより塚といふあり秋田郡琴海八龍湖の形琴の形なり又琴川の水漲  
琴の海といふありの岸よりめより岬に本三倉崎南部鹿角古名上津  
より又神倉山あり里人めより山よりふこの山より三柱の神あり御倉  
亡目人訛安き語ちればあるといふこと。○後詰沢よりあり大森城  
主小野寺孫五郎康道より加勢より大友氏遠藤氏此處に後詰せ  
一処といふ明應の軍より遠藤對馬守より人出する古証録に  
見えたり牛王長嶺よりあり此沢水の中郷村より流ぬあり此  
山より極樂寺より觀音寺より僧侶集りて護摩修行し牛王宝



印は加持し国家安全をいひてゑふればこゝろよりふかおとに  
いふ此山は猿子石とて塊の如きの産りし破れ八人形佛形  
猿形のこゝろよりこゝろといふ

大友氏由来

○白山祠官大友本大伴氏なり家八沢木樹阪大友吉忠代り別  
家せり○吉忠大友武右衛門吉忠とふ○二代吉高号銀藏安永五年  
木根坂に住居し同享年○三代吉満号志津摩吉高子く○四代吉  
上溝号登川とふとて○次号吉次子く○五代吉方号兵司執負吉  
次子之実ハ養子なり吉次吉弟く○當時五代大友兵司  
藤原吉方く○林示戒あり保呂羽山といふ○一村鳥獸を不  
食○井を掘ふに○藺草不作井に藺と近ければ志ら制禁  
としりふら○清酒造らに○酢作ふに○藍作ふに保呂羽山

は藍桶の沃とてあるとて忌々く○新米正月五日前に  
佛供ふ備へず○新葉屋屋敷ず○稗不結○追鳥狩  
不來○餌指不來○御鷹の餌不出と見えたり

櫻寒泉古語

○そのしるしにかゝり四十六代よりすゑ孝謙天皇の弟代天平勝  
宝のころをむり大和国吉野郡八金峰山とて安閑天皇の荒  
魂の御神藏王権現とすの出羽国平鹿郡弥次城莊保  
呂羽の獄よりつゝ斎奉ぐんと先きより行宮を作てまむし  
はあゝと座すのしに今テの下居宮是にかゝり其師世天平宝字  
元年の神殿造り成就天平神護神護景雲のころあまの  
末社とてこゝろより斎りそむる神官祠官をあらはれ見えたり其  
世に此とて吉野より御神幸の舊道とて加興下神興とて此







住居白山祠官職を大友氏に譲りてその詮駁として上祖より重  
寶鑑鑑形戈を贈りてその鑑つたてり大友兵司吉方の名を  
珍藏とせりたは神事奉る者もその宝に日々にむかひ  
昼川の白山の沖より南方の屋上より神明社ありこがねの國石の山白  
山上社に菊理姫下社に井井丹尊といふといふ似たり○晝阿  
白山祠官大友兵司藤宗吉方家ノ年中行事式○正月元旦  
ヨリ十二月晦日ヲ毎朝天下泰平國家安全五穀成就御城主  
御武運長久御壽命長延御祈禱勤行

○正月朔旦御供神酒昆布献納○同五日御供神酒昆布献納後  
祝詞勤修神秘○同七日○二月朔日○三月三日○五月五日  
參詣輩糗献納○六月朔日○七月七日○八月朔日○九月九  
日右七ヶ度神酒献納○四月朔日社内於長床湯立神樂勤

行神供神酒献納○四月八日御供昆布神酒献納後祝詞  
勤行御神事御供米として毎年恒例として米三斗保呂  
羽山神主大友家より當社へ贈るを神供として右西  
日諸處詣境内よりみちて賑し○十月五日神事式四月八日  
おあし○立願し復祭のとき煮大豆を條の葉の毎毎  
に積て神前より手酌奉る○當社保呂山より御由緒あり  
何事保呂羽山の御奉るにむかひて前より記したること  
○上溝村より尙助餘の諸役御免の神田あり神主より  
守護せり此田佃より女人馬足を禁ず此御清淨田の事ハ前  
よりいふが如き記しを叙して一俵外より小餅三十  
大根二本昆布副へて十一月七日神事夜神子奉る  
○岩清水の由来ハ前より是れ委曲に記しあるが如き事なり



いむかの寒泉の山岸へ不降ある女寄来とたちあち水の色変ふ  
 事恐るゝとて身のまゝとぬ女男もまれ近よる人あきし  
 病人乞て此水飲も、瘧疾も飲もれんが賒ありとて  
 ○此郷ハ住者も保呂羽山の神主大友氏の掟処まへ八沢水山  
 子奇くさあぐの禁制多し村民家謹てゆめくこゑを犯  
 事あきあひしあり  
 ○山石清水の嬰らんばさうら清水もあまのなまなり  
 あり葎か障の釣瓶山も清水ありて櫻あればさうら  
 んづもいつれど此上溝邑の一巻をさうらゝづのなまあ  
 す山石清水も櫻を花と見でゝな付なまなり

畫川邑共二

甲 岩寒泉

乙 櫻あればさうら清水とらふ

丙 猿田川





西

畫川 其二

甲 畫飯山

お島といふ

畫食森といふ

お島といふ

中島といふ

乙 御清田

ソコといふ

市街といふ

入るといふ

清まわといふ

丙 石清水

ソコといふ





畫川 其三

甲 白山社  
乙 神樂殿  
丙 神明社  
丁 北神陰と腰と沢と  
戊 雞居松鳥居松  
己 畫川邑





畫川 其四

甲大森邸乙小野寺孫五郎康道古城  
丙銀ヶ岬丁菅生田戊畫川村  
己畫飯島庚猿田村阿弥陀谷地  
辛白山比咩神山壬岩清水眺望



白山の東猿田村といと近く  
甲石塚本林といふふありそ  
ありハ大木林より陣場沢といふ  
ありそこも由利統虎せしふ  
といふ明應のころ由利忠八  
郎横手ノ小野寺と戦ふ  
遠藤藤對馬正保小野寺の力  
を合て軍功多しといふさふ  
み子見えん





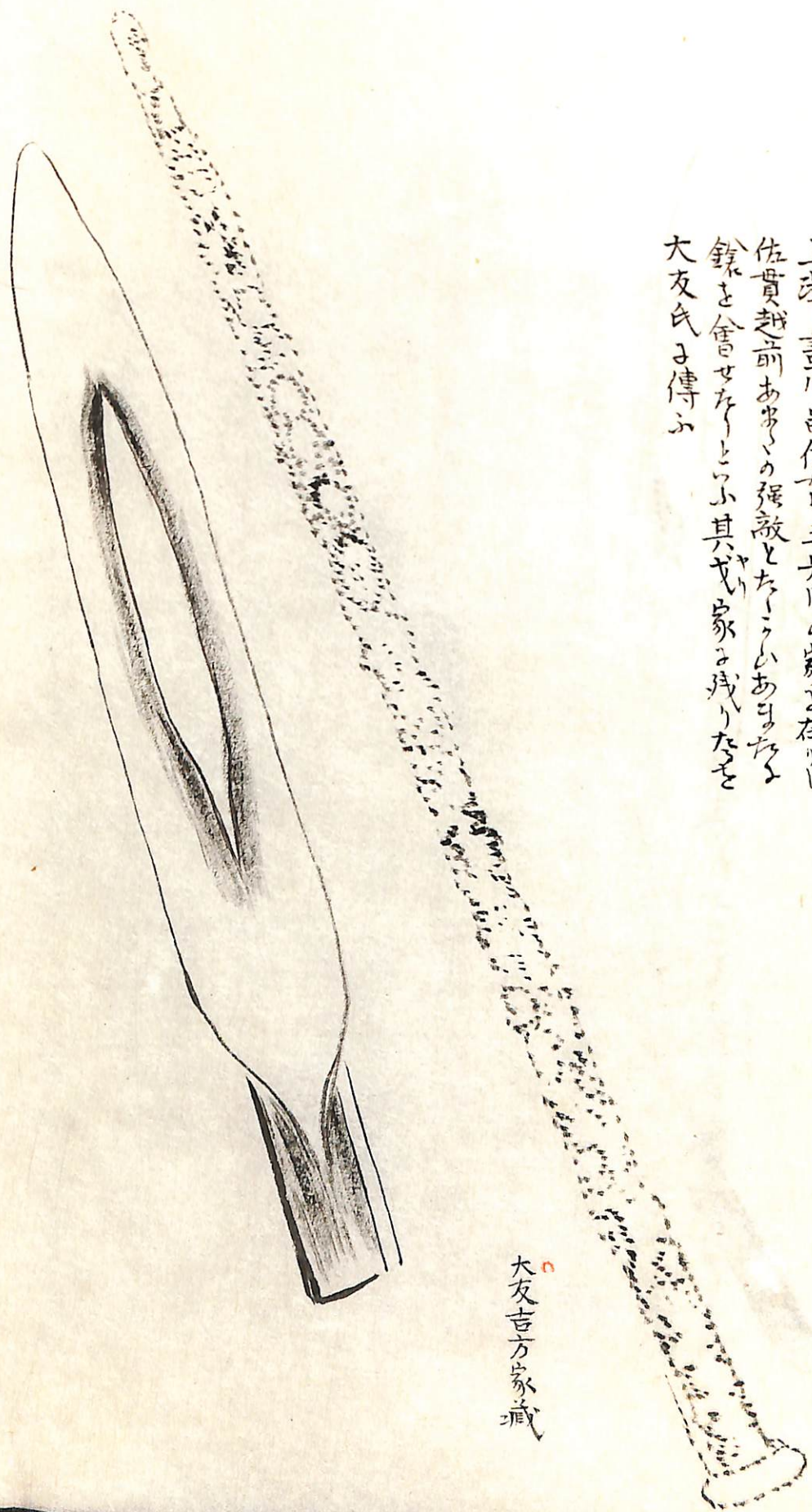
畫河山ノ菊理比咩ノ神象

甲 御頭より神背まで一尺三寸五分  
 丙 四葉の丁神座の高三寸五分  
 ところへ缺て左右の神手神足  
 全くとるなりといふとさう給  
 ふ御神形之



上溝ノ畫川邑佐貫五兵衛の家子なりし  
 佐貫越前あまの強敵とたういふあまのたう  
 鎌倉を舎せたりといふ其や家子残りたるを  
 大友氏子傳ふ

大友吉方家藏

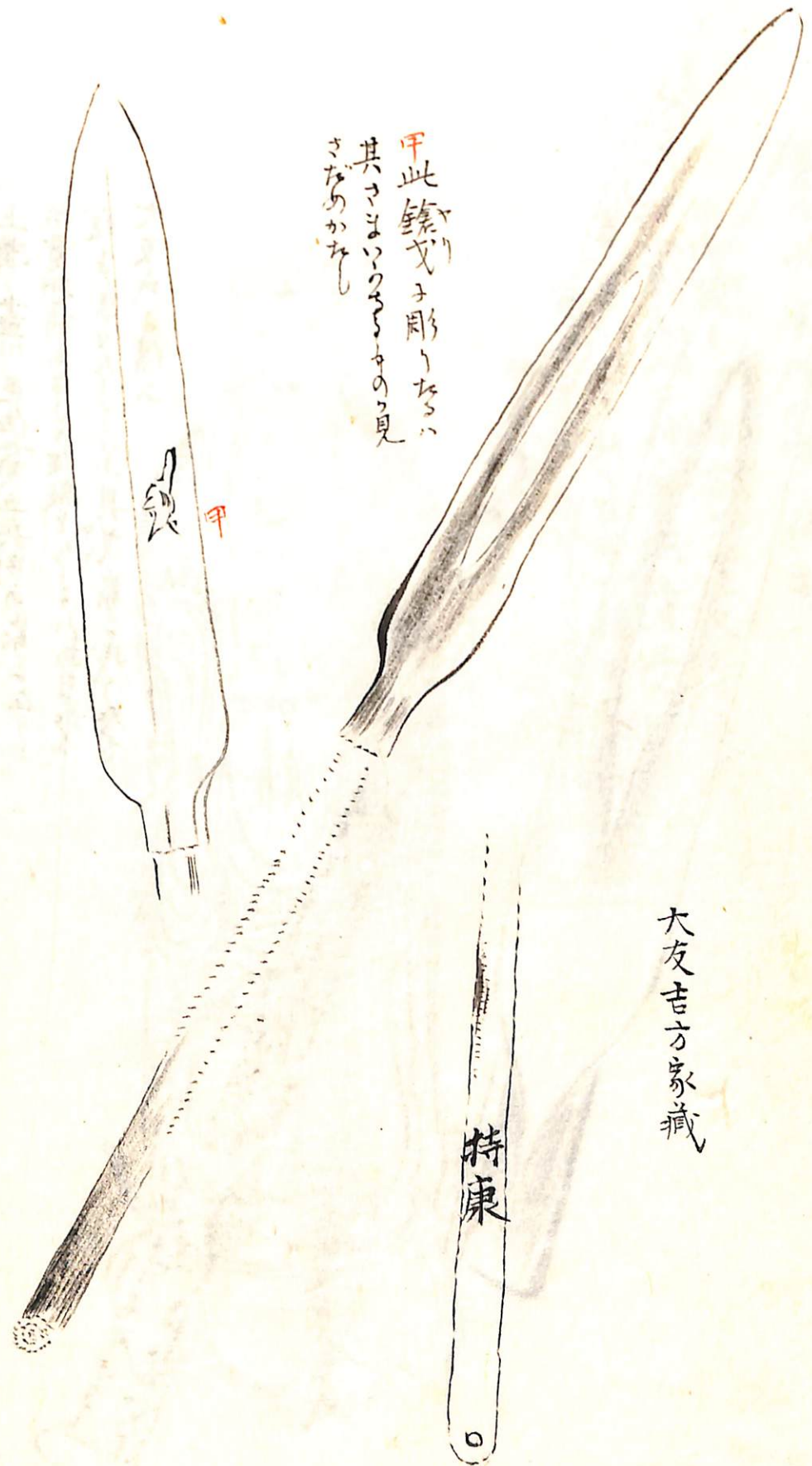




大友吉方家藏

持康

甲此鑢ヤリ子彫うなるハ  
其きさまいろううのう見  
さたあかなし



○清水野上

いりーいりー 大なる寒泉ありてその邊に唐野ありが  
人うつ住て清水野の上よりふりて清水上へいりて享保  
日記に「正保年中中野邑より太郎作とて清水のほとりへ移  
居るを以て村をとり家貢五軒」と見ゆ今ル五戸あり佐々木太惣右  
衛門とて舊家あり此家享保日記に作る太郎作の後村の  
末ハ大森村西ハ中野といと逃く南ハ山北ハ晝川を隣とせり此邑ハ井  
掘り制禁なりねば辻井ありてくぬ○寒泉あり柳ありハ  
柳清水の名あり 庚申の碑立ち 杉塚あり行人塚とてさハ不  
多忍石彫門ハ境内ハ垣ゆい巡りてそありけりといふー(そハ  
ハ優婆塞ウパサヤカ行の庵あり其靈刹イホリ顔コ底ソなりハあつ  
獨銛ドクセン花血ハケツとて佛具を埋めて不淨なる人小兒婦女子を禁







○郡邑記云、中野家貞二十軒慶長年中五郎と郎三在  
御門流在御門上置村の地より中野の南に在り、ありハ村ありし処也、といふやうに移其  
処中谷地有之故中野といふといふ

○草庵あり大徳寺の末庵といふ元禄四年辛未三月建  
立領主佐藤長と郎豊偶法名領賞了圓居士三世助風  
法師過去の序あり開山ハ欣庵厭求元禄五年四月八日入化二世兼  
登達聲一月化三世傳登助風とあり當時十六世といふ  
空庵此庵初ハ津土庵とや三世と登号あり四世重保  
のころより禪庵とありより賢快上座といふ事見たり  
○佐藤若狭忠隣の由来佐藤長と郎忠勝當代より  
四代カキより已らさる隣ハ新田開泰託有る石川新郷人の  
金刃之新田開泰託云大坂一戦ハ内膳様打北荒れ半石御門敗

國ありてありその中ハ院内銀山カネ夥しく銀出たりハ市々中  
市一人不絶ず末唐ふれし中ハ梅津半石御門様田地の開へ  
精力を尽さんそのふその百姓様ありをあげ造了山田  
原より下今ハ田の西まで五郎と郎といふ者の仕入る二百石餘の  
処成就す其ふ夫より深井村と四五十軒斗の村とあり我ハ  
そのふより住る今ハ石川新郷人は是といふと見えたり此石川  
の弟佐藤氏知年とあり安永八年己亥十月二十日七十四  
歳故法号天叟了運居士といふ  
○石川人の物語ハ八河あり末洲沃ハ佐藤七右衛門といふ  
世の所縁を白井舟沼の佐藤浪と郎とあり七右衛門とい  
ふが佐藤浪と郎が古親族のといふといふと三人といふ  
こゝに結果しんをいふといふ



同氏の家藏たのこし

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

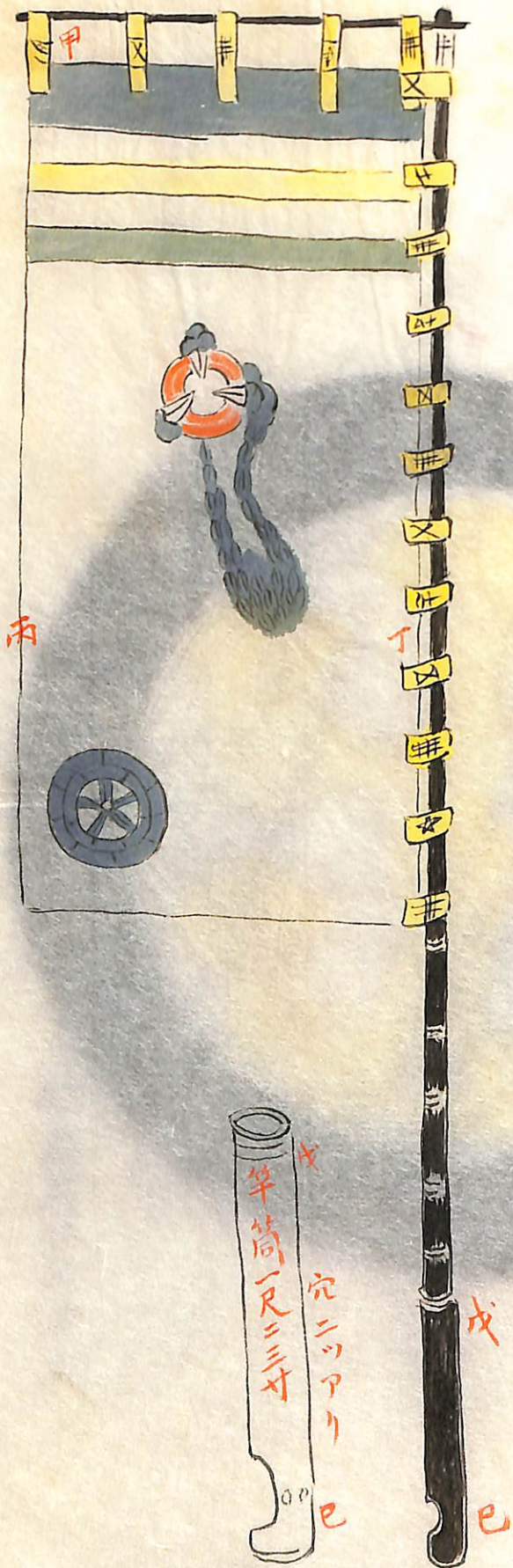
差小旗

甲乙長四尺四寸丙丁幅一尺五寸

竿竹  
黒漆 長七尺三寸五分

詠手玉ヲ握シ又車形アリ

佐藤長兵衛忠勝家藏



竿筒一尺三寸  
穴ニツアリ  
乙



立物

甲乙六寸四分

甲

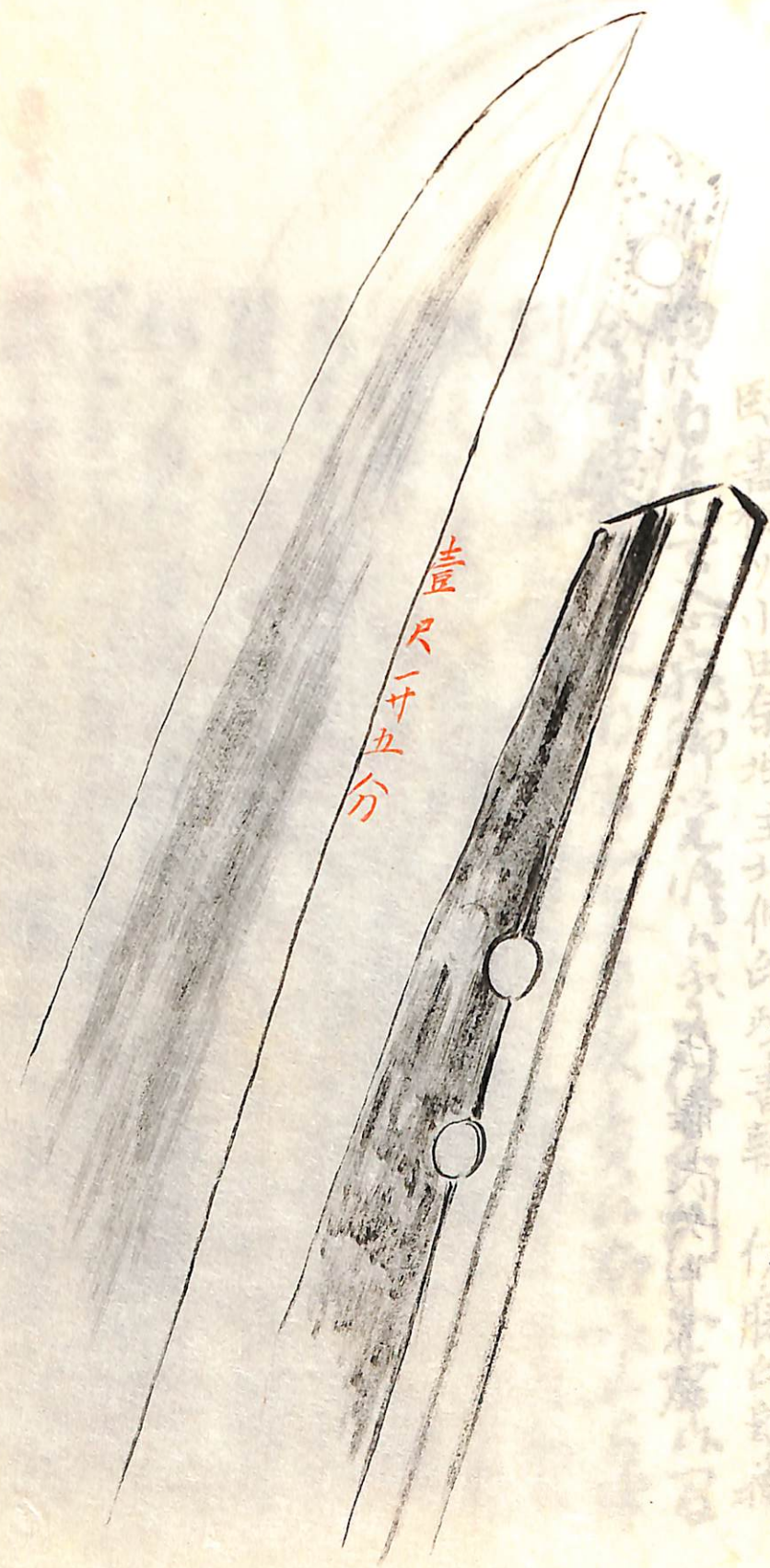


佐藤長兵衛家藏

甲乙六寸四分  
甲乙六寸四分  
甲乙六寸四分

立物

壹尺二寸五分



佐藤長兵衛家藏

臨書同州小田原城主佐藤氏家藏



刀丈ヨリ 鐔元三十九寸

佐藤長兵衛家藏

臨書相州小田原城主北條氏政書翰 佐藤氏家藏

内、白きて合飛御足雁のふまは志利、其書以召  
 令、張栗持、地り云、二書、夜責、以、右、以、右、申  
 刻、海、持、城、と、方、余、振、と、然、守、り、其、助、以  
 城、と、と、書、あ、築、田、持、と、な、之、開、使、て、送、致、由、是  
 迄、野、田、中、の、縁、道、之、役、志、敵、味、方、の、慣、と、更、旧  
 来、と、と、追、拂、り、其、不、論、旨、法、中、あり、於、其、女、友  
 築、田、一、統、は、な、及、滅、と、の、ら、と、之、給、而、任、と、右  
 任、と、成、の、自、々、り、南、城、之、成、普、法、不、定、と、右、と、右  
 下、の、お、事、外、之、け、交、流、と、右、志、粉、骨、の、故、則、刻  
 為、法、法、大、其、と、案、入、の、城、と、と、擬、巡、更、一、雁、氏  
 曲、以、留、散、替、憤、と、云、云、是、は、之、卷、と、云、云、青、の、大、其、上



多しふはとけりあふみ通ふまゝの中  
 ね又向深谷羽生にたふおまへに由肝要ふと  
 別二候に地をゆりお城に由法取て成ふ一礼候  
 二拜し甲お高國をたふ存ふにけふはとけり

十二月八日

氏政月

中長信光殿

甲  
 檜木清水

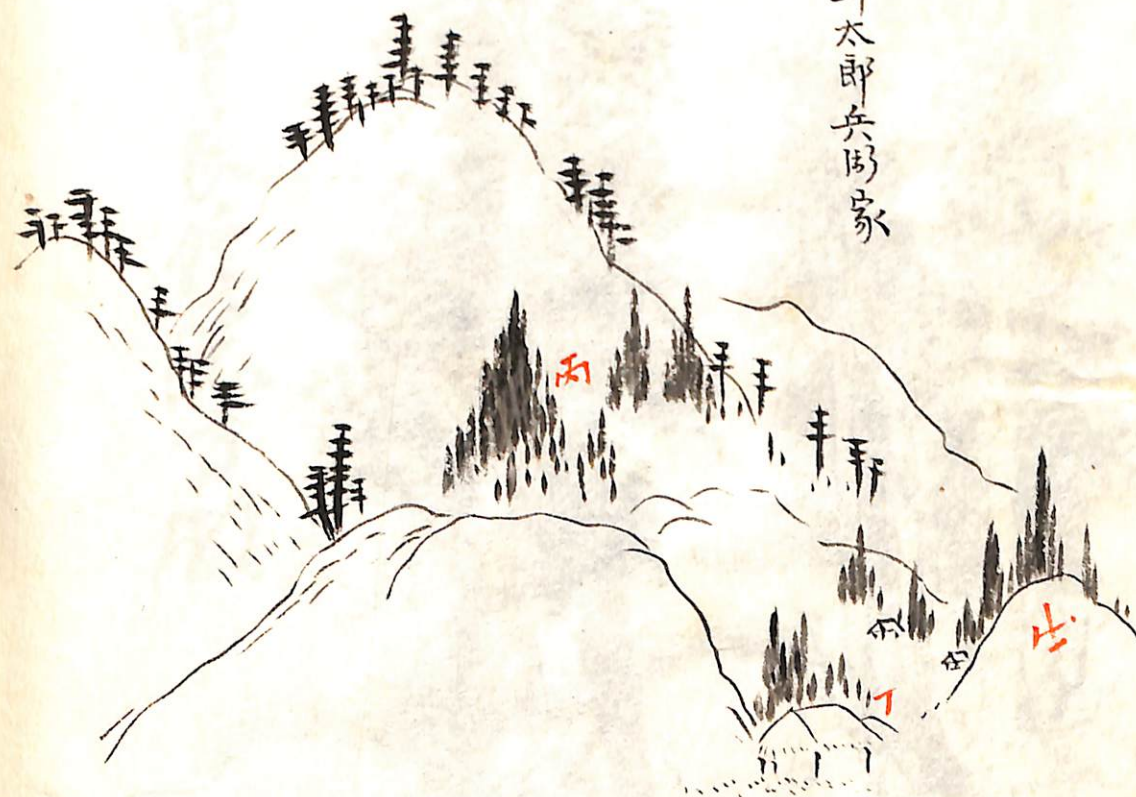




南



甲道田乙坂下夕  
丙藍婆神丁末野太郎兵衛家  
戊祇園社

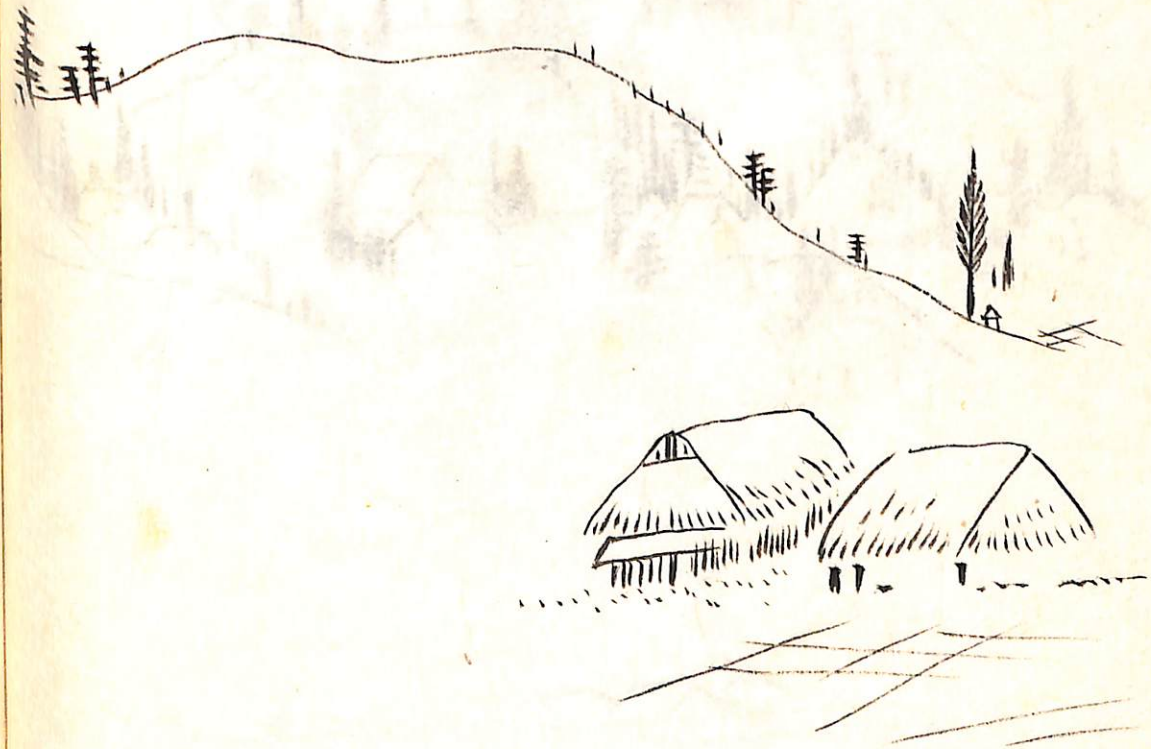


北



修驗者修行院由来

○高松山修行院の上祖、寶性院法印宥永とて本  
皇都ミサトの人なりしが百九代後水尾院ゴミヅノノの御代ミコヨ元和六年庚申、  
二月の晦日すく三月四日まで京都ミヤコに面祿オモガキありて人みおちりく  
よさまよひて曲水闘雞コウスイミトリアハセの市オホなるものゝたゞしくおあゝう世の中  
さるやいさゝくバ宥永法印けんぐみの緒をいあすいかけき身を  
はたし腰ハタシに法螺ホウロを付けあや槍ヤサガを看てまこゝに任馴ニナれ京都ミサト  
の暇ナヒとてつめをまき退タチシガり困クワシを修行しこゝかゝとよきをまぐ  
あき北出羽イデハ国クニに引キゑりて由理ユリ、伊達田イダタ莊サウ中田ナカタ代ヨといふ  
かゝしを經て百十一代の帝世後西院ゴサイノノの方派ホウハ二年に亥のとしの春  
の頃平康ヘイカウ卿ケイ弥次城ヤサキ莊サウ上溝カミミヅ郷キョウに引移りま野ノといふ  
一佛刹ヒツツツを作ツクリて祈禱所キトウジョとせしめて米沢山メザカの藥師佛ヤクシの中





保良羽觀世言保良羽山よりうつた此二社の別當ありぬか  
寛文六年丙午、秋中野村へ靈刹うつて、栖家今修  
行院是に住し、捨る末野の佛刹の跡、ふみちり住しきん  
を恐てあつと土と云ふ年、掘りつゝの塚を築て大般若を  
御讀經して、納め供養せしとあり、天和二年壬戌三月二  
十二日中野村の又石門あり、ありし地、院建立てり、から  
やら此ふに住め、後改定、行とらげ、んぞ、梵天帝  
立て人のよしちあら見せしが、其修驗者の住し跡を、  
梵天野とて、末野村の野中、その名の跡あり  
○高松山修行院の開祖權大僧都法印、肩永天和  
三年癸亥十二月二十日行年八十八歳に遷化す、二世法林坊  
肩津、享保五年化、三世法樂院、肩東、延享三年化、四世

林光坊、肩通、是中野村の厭求庵、十二世、林光、肩通、優  
婆塞と記し、たす、不碑あり、過去、見えたり、天明四年化  
○五世快山坊、六世修行院、泰全坊、秀光七土歳、公翁存余  
○當時、住僧修行院、知つ坊、肩山七世、あり

○上野、

○此村郡邑記云、家ぬ二十軒、元和年中、治左門、中野者中  
野、引移り、少く、小高、処、上野、と見えたり、今四  
戸あり、中野上野末野、と家ひり、軒を、  
べ、ち、し、今、末野の、肩、天正、長、の、井、い、り  
残り、を見、其世を、偲ぶ、と、あり、田島、跡  
あり、寒泉あり、此、と、し、櫓、樹、あり、と、い、ひ、の、木  
清水、と、い、ふ、と、あり、と、い、ふ、と、あり



○梵天野

○此邑末野とおもひ村をめぐりさうらのけちありゆゑを  
前よりこのことし修行院の祖寶性院宿永の古跡にちちり  
○神明宮木伐り橋とふ地の西ちち山を登り祭日四月二十日  
上溝一村の鎮護神として菊地甚左衛門守護  
○熊野社木切り橋の通ちも遠沃伊左衛門が佃る田の中  
育奉るいとく古きみやどちちありそのまじのを知る人

○末野

○末野いといく多々る村をめぐり在所にありて其保日  
記に天正年中氏部五郎とらひり者ありしをいふ

○向山稻荷明神葦沢伊左衛門斎ふ

○藍婆神社祭日四月九日佐々木太郎が斎ふ藍婆

半羅刹女の頭首の名之法華経陀羅尼品に爾時半羅刹女  
等二名藍婆女二名毗藍婆女三名曲曲四名華蓮五名黒蓮六  
名多髪七名無厭足八名持瓔珞九名皁諦十名奪一  
切衆生精氣是十羅刹女與鬼子母并其子及眷属俱  
詣佛所同聲白言世尊我等亦欲擁護讀誦受持法  
華經者除其衰患云々と見んちむりいはくふきやうの  
修行者や斎いけむ

○稻荷社太の藍婆社の後ちち山を依り木太郎が斎ふ

○祇園社古き棟札にせき寛延のやしの名に殘り祭日

六月十五日葦沢伊左衛門斎る神社

末野梵天野のあたり今せて享保日記に十七軒と見えたり  
今ハ並て八戸あり



道田

○道田は道の下ふ田あるをいふ字といつたを道田といふ  
作り郡邑記に「家員六軒元禄年中甲辰三三郎といふの  
開地と見ゆそのあつて羽多甲辰三三郎といふ者あり其後  
佐々木源右衛門といふといふあり羽多氏八代末山内氏の十人の内  
その姓聞えたり後佐々木氏なるが北源右衛門の家系系譜書に  
録等かおおよそ太刀たれはなりが近き世焼せしむせたりとありぬ  
○千手観社祭日三月十七日佐々木源右衛門の守護祠と  
○さうき稲荷社佐々木吉郎の祠が境内よりすあつたり  
○さうき團八稲荷社同人やりの内よりすあつたり

坂下

○家二戸あり山坂の下ありをいふを坂下とせり此家あり

葺津嘉右衛門極楽寺といふその末極楽寺村あり葺津は  
嘉右衛門が舊宅の跡より古き稲荷社ありしより杉の木の  
庭せしめその人おとししところ神社といふありてあるは昔のた  
たひ興してそこよりすむさうき長之助が斎奉といふ

杉稲荷明神 二月初午、日奈佐々木長之介社寺之

極楽寺

郡邑記に「家員五軒極楽寺といふ者の屋鋪跡あり見え  
たりといふ小野寺大童子をいふ寺ありといふ時とせしむるあれ  
ども其の極楽寺は古寺のありしをいふ今の村なりとせり此極楽  
寺村といふ段の方より中へ水上沢山ありその山の麓を溝谷山  
極楽寺の舊蹟といふ堀の跡道の形代仄に残ありその寺跡  
より真北よりあちる溝谷山あり此山は寒泉ありそをみたなり



一とせりさるる溝窵山の寺なりと云ふ極楽寺建立元  
年の創めりて溝窵山千手觀世音の靈刹なりともいひ  
舊より靈駐靈場なりと云ふし甲よりて開基の迹をたゞ  
いひていひり大寺即ちおぼくして四所を礎の跡残  
りたるを見んその有し世を偲びしなり安んずる本尊  
御長二尺の紫銅の尊像なりしが盗人入つてこゝから  
とつたなりと云ふ佐々木氏上祖高尚志を以て敗類  
たる觀音堂の跡をさうやうとて一佛刹をたて千手觀音  
菩薩の木像を安置し奉り享祿天文の世より千手大悲の  
御堂なり人ゆかりとてなりて天正のころも横手の城主  
小野寺遠江守義道舍弟大井城主小野寺孫五郎康  
道の世よりハをり新領復興あり代々をいひて寺附

の物ル多かりしと傳へる亂世よりみお村屋を造りて散ちたり  
て住つたをりとの圓祿よりなりてむくの佛具輯録等  
つみだり付ねおそれとて合すやきものありと云ふ前  
祖より尚の代より累世當時佐々木傳左衛門高恒より  
おの溝窵山極樂寺の千手大悲菩薩を別當事たり  
○溝窵山千手大悲觀世音祭日三月十七日佐々木傳左衛門  
喬正徳二年壬辰夏杉宮吉祥院五十九世快馬諱宗憲  
お定宗興  
祖より法印巡拜し仙北より百番札所定めたるその時むくハ  
大社よりしをりて武藏国秩父郡二十二番に類て溝窵  
山千手堂といふ

○山神社齋主佐々木勘左衛門祭日あり  
○稻荷明神社原田孫左衛門齋主祭日あり



○山神社南主佐々木久左衛門 ○稻荷明神社並佐々木久左衛門祭る

○賣子木社アサギキ賣子木不動アサギキとて亦賣子木と云ふをあらわしやと方言此木周囲一丈二尺の古木これを不動尊と奉りて溝窟山の祭日とて祭るやうに十二月二十七日イモ斗に斎火し南主佐々木吉盛の家イモ斗に忌夜イモ斗読りといふ  
○庚申社四月ササギ次申日村中の人々神酒を祭るといふ  
○村端子ササギ子安観音 辻地藏堂ササギ中野ササギより大の極楽寺村おとを並て横沢といはうといふ

○武道臺

○武道臺は本ササギ浦葡萄臺の森ササギにあり 郡邑記に西矢嶋領高村内強清水谷地山井山浮蓋山脚領強清水

谷地山石場長根茶筌木長根堂野沢大同杉山續ササギ峰境多長身申支那末野村より内藏之助興助ササギと有引移ササギ家員三軒杉野沢六軒上武道臺十軒下武道臺合十九軒東西脚領と見えたり今十三戸あり今一戸杉野澤大友七右衛門より家ありと山吹枕の巻あり塚物語に太田塚太田小治郎某と云ふ大友氏あり大友家無二の忠臣の人仁王門より逃く此太田塚あり其太田小治郎ササギ後胤ササギ近隣の上溝邑の杉沢より処に栖る大友七右衛門といふと見えたり  
○山神社南主大沢助左衛門 ○庚申社南主長沼長左衛門  
○觀世音南主福田九左衛門 ○藥師佛共福田氏南

○吉ヶ沢

○葎筒沢ヨシガサハ芳ヶ沢と云ふ郡邑記に云ふ家數十軒寛永年



中武在郡門といふ者武道志より葭原の処へ田畠を開きたる故村  
名なりと見えたり家員吉沢氏共八戸あり

○山神社祭日十月十二日吉沢熊之丞

○若木山神痘瘡神裔主吉沢氏あり

○御西田西の島海山の神田として  
東許のいあだあり原田孫左衛門佃る

### 鐘山由來

○都流閉山ハ一段ハ沃の内よりなる我の屋やそのもとにた  
るをん山の形雄勝郡より宇流院内の山に在る也や似て常  
六の津子ハ幡宮神さぬく神明宮春日社より山の  
あたりにあり馬頭觀世三日を安置する下屋の宮より雷  
天風天として社のたよりなる雷神より雨を乞ひ風神より風  
のあやうを五穀ものけり人事を祈るなり此釣瓶山ハ

○岩嶺尖イハノミネ後耳なる山なるは属鏝峰ツルギネと云ふいしを記つたへ

てある釣瓶山といふものなり豊島落城の後原田越前某

と云ふ武士ビヤウシ遷来て此山を開基ヒラキたるなりと云ふ此原田越前の後胤

原田孫左衛門と云ふは極樂寺村に在り此孫左衛門四代前ササキの開きたり

と云ふなり元々天正と云ふ創ハジメと云ふ人復々四月十五日秋祭八

月十五日之釣瓶山別當上祖ハ藤原氏と云ふ近江吉兼ハ首子

孫ハ頃の人なり安永年中卒二代吉胤繼之丞ハ吉兼子之三

代吉瑞近江守ハ繼之丞子之四代熊之介吉成之

### 神田

○極樂寺のあがら沃といふ所の清田あり此清田代の稲を  
以て神供とし神酒カミメをりみし献タテマツるあり

### 櫻寒泉







○某子某子といふ小を付て方語バ錢子堂といふし  
しある福者おどの堀に置てその名を付たりなり○道祖  
神の居つこの塚ありきその名の所なりとていふもあらずねの  
所八次不も由理へ通ふなり

○觀音寺由来

○晝川邑は依る木活惣之郷といふ所あり此の所なり  
あるふありある夜におく夢は觀音寺の古寺より四つの方  
あり其三つの塚の上より鮮より方頭泉三尾ありあやや山より泉  
あるふと思ふなりし白髪りちりたる翁杖すが  
り来て此のふを掘りて杖とて塚をさしつゝきつと見て  
覺るなりとておさしき夢のみをいふんと人といふ  
その山よりつね登りて塚とて文化の年己に七月二十七日

鉦鉄の力よりする若男等と掘りておのの塚の底に軟石  
なるものなり其甜石を定よりかちてその内は紫銅の煙筒の  
如きものなり其の書ありて筒のめづきも河原の石なり  
とてあてその上より西刀の横刀と並べて石を置て土を高く埋  
めんと太刀の柄よりちりて手を取りてみたりははれなり  
とて  
ねと鞘の漆とつらなり其の石もはれなり  
あるなりしをいふなり左儀の影とてそのものなり左儀  
かくて此筒の書ありては筒の内は濁水七八分のみなり某  
水ありてはれなりとてそのものなり人みたりとてはれなり  
ある人なりとて左儀の影とてそのものなり左儀  
いて試みたりとてかななりとてはれなり浅茅小芒とて手  
より刈て左儀索て此筒の濁水よりつてせは左儀たなり



ぬうち見る人の衣は右衽よりつた水鏡のみある物なりとい  
渠田の面をどう臨み見れば、左に「水」の字あり、右に「鏡」の  
字あり。此の水の中子貝あり、有るいと水うちこぼし見え  
ば、此銅器より久安五年己巳五月日僧良興と二重文  
字は此十二字を彫たり。是れ水への水の字も少し、右衽  
の襟より下り右側の衣よりつたる影こそあやしく、あや  
さうのかゝるあれにかゝるものあり、そのありさま一つの塚を  
よびて見るとして、いふあり、男ら鉏鋤するに掘り崩すべ  
一の瓶あり、その瓶の内より前如きものあり、大なる銅管の  
り、此銅器の内より朽ちたる麻衣の形せしものあり、此甕の内  
銅壺のめぐりの塊の如きものあり、これいと積たる横刀を  
三の塚よりみながら埋むるものあり、このありさまとてあはれ、水へ

いらる水もきよなりけるのありたるゆゑかお乃水なる  
 まその水もきよなり銅壺ハ經筒なるものハ佛經のこ  
 ろん書ハみづから繰りく巻くさうなれば書籍をくる  
 とふその經典を竹帛とて竹箆とて巻納め常々朝夕よ  
 む佛經をバ筒より入て極おと掛たりとおのれたる古  
 寺ハ經筒残りて有りぬ其を見て花瓶も墓も經  
 壺形とてせよとあるものなり此塚に納るものなり  
 銅の管を制作おしたるものなり久安五年己五  
 月日僧良興と彫たる經筒なるもの内て觀音寺の僧侶や埋  
 めたるなりとあるなり尾張国甚目寺（つゝまの）のちのちの  
 田の中より大同某年との彫たる經筒生じりみおくるんて大同  
 の二字を存しを見しとある僧の讀み此觀音寺ハ五十六代



ありしなり清和天皇の御世の観音寺の古寺なり此観  
音寺の尋ね知るも最上田川由理おどを問ひしとある  
どつづきあり観音寺といふ佛刹新古かきなりといふ  
所へ舊跡あり村のなほ田地田畠の字あり観音地か  
といふなりといふ多しやう秋田郡妹川道に貞和三年  
の碑ありしをて観音寺のありしといふなり  
祝瓶に掘り出たりしバビカをいふ観音寺跡  
あるといふなり思ひ定めて雲山踏えといふ一巻の  
記載ありしをいふなりし筆の誤なりおたび平  
鹿郡上溝郷の観音寺の古跡なり其尋る観音  
寺ありめ三代實録貞觀六年條に以出羽國觀音  
寺預之定観と見えたりやう同八年九月八日庚戌以

出羽國瑜伽寺預之定観と見えたりとあり郡  
なる湯香股といふ温泉の邊に古寺の跡ありとあり  
とありえたり又此観音寺といふありし貞觀の御代に  
古寺ありの貞觀のやしより久安の年より凡二百七八十  
年へたれどもこれを以てあるを證し定観のなりといふ  
記録たる書いと多し徒然草に詩寺の僧のいふ所は  
定観の女孺とて事地喜式に見えたりとあり今たあり  
る工人の通号ありといふ見ゆのみ鉄槌の記文に僧といふ  
寺といふ定なる詞に云々あり女官下女孺といふ掃除  
しゆさきと見ゆあり續日本記に文武天皇大寶元年八  
月皇年滿者不論官不皆入賜祿之定観とあり弘仁式  
文曰太政官府禁斷京職畿内諸国私作伽藍事奉新



定額諸寺其數有限云々ありあつ十八史略第七卷云元  
 以耶律楚材言始定天下賦稅云々出銀一斤以諸王功臣  
 湯沐之賜璫每銀一兩四十斤永為定額とありいづれも數  
 の定たる事と此觀音寺も貞觀のそのいふこと定額と預りし  
 いふ事と大寺の蹟とこそありけり此あたりその世と駢跡ふ  
 いかとありとをたうたは見人々の考證ん給む事とまたい

○觀音寺

○觀音寺村此邑郡邑記に傳たり家五戸あり○寺跡あり

○稻荷社祭日

社守 長作

○山神社祭日

社守 樋口勘三郎

文化六年己巳七月二十日  
 觀音寺山より畫阿村の佐々木  
 治惣兵衛堀るなり  
 中よりし本行よりあるものなり  
 此 薩の蓋の世より片口より  
 ありなり 底の文字めけりなり  
 あれなりよみなりがなり





癸卯高

甲乙ノ亘一尺二寸五分丙丁ノ亘六寸三分

戊己底ノ亘四寸六分

蓋片口陶

甲六寸九分丙三寸五分

丁深三寸三分



二壺共ニ紫銅の  
筒より火災して色  
を變し赤銅の如し

高甲乙間七寸七分丙丁亘三寸八分

久安五年己巳五月日僧良興と云



十二字を二重文字に彫たり

久安五年

己巳五月日

僧良興

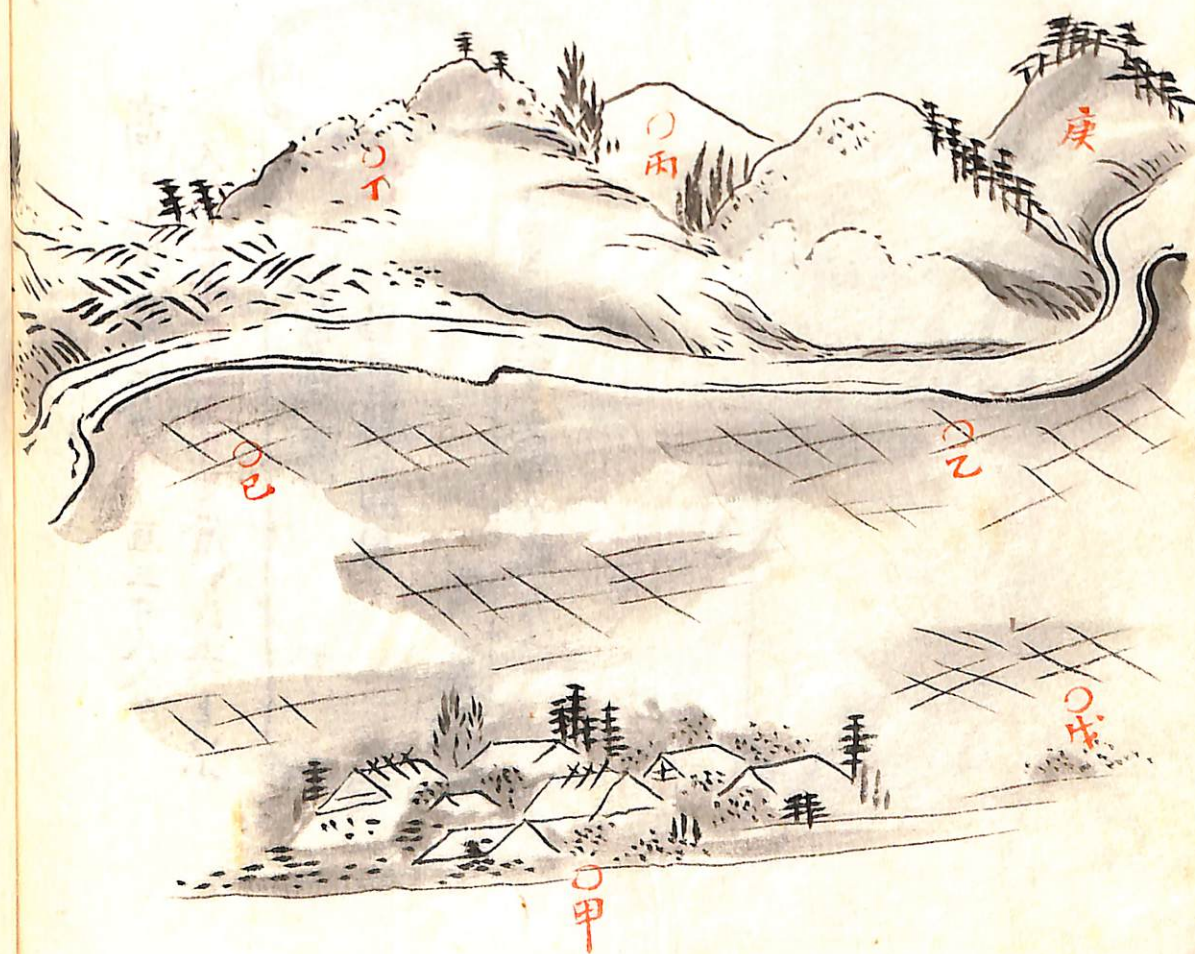
此筒ハ瘡處中より  
出たり是ハ文字を  
内塊のごとくまじの  
あり



甲乙亘七寸一分丙丁四寸五分



甲 観音寺村  
 乙 観音寺跡屋鋪田より  
 丙 観音寺ノ四堆此三堆より  
 全筒を堀りし処あり  
 戊 高花田ニ河原田  
 庚 八沢木村の塚栗山  
 己 寺沢



須子田

菅生田ノ義ノ洲小田と作一あり此地大森邸  
 に入り交る人ハ極家なり地ありと云ふ大森のくたうも  
 記しなり享保日記ニ元和年中大森道より長尾邸門といふ者  
 引移り田地の字を村とす「ら家自三軒と見えたり大森の  
 領より全に二戸あり上溝邑の地より家ありと云ふ

手取中島

此手取中島ハ元来大森と上溝と一印ありて御膳のい  
 だ横切せり地續きありと云ふ開たりし村今ハ食膳河  
 の河ありと云ふて上井村と云ひて強流在邸門といふ家一  
 戸あり郡邑記ニ延宝年中中野村より引移り家々四軒  
 先ニ手取中島といひしが今手取と改め見えたり



○山神社 齋主孫氏右門家日

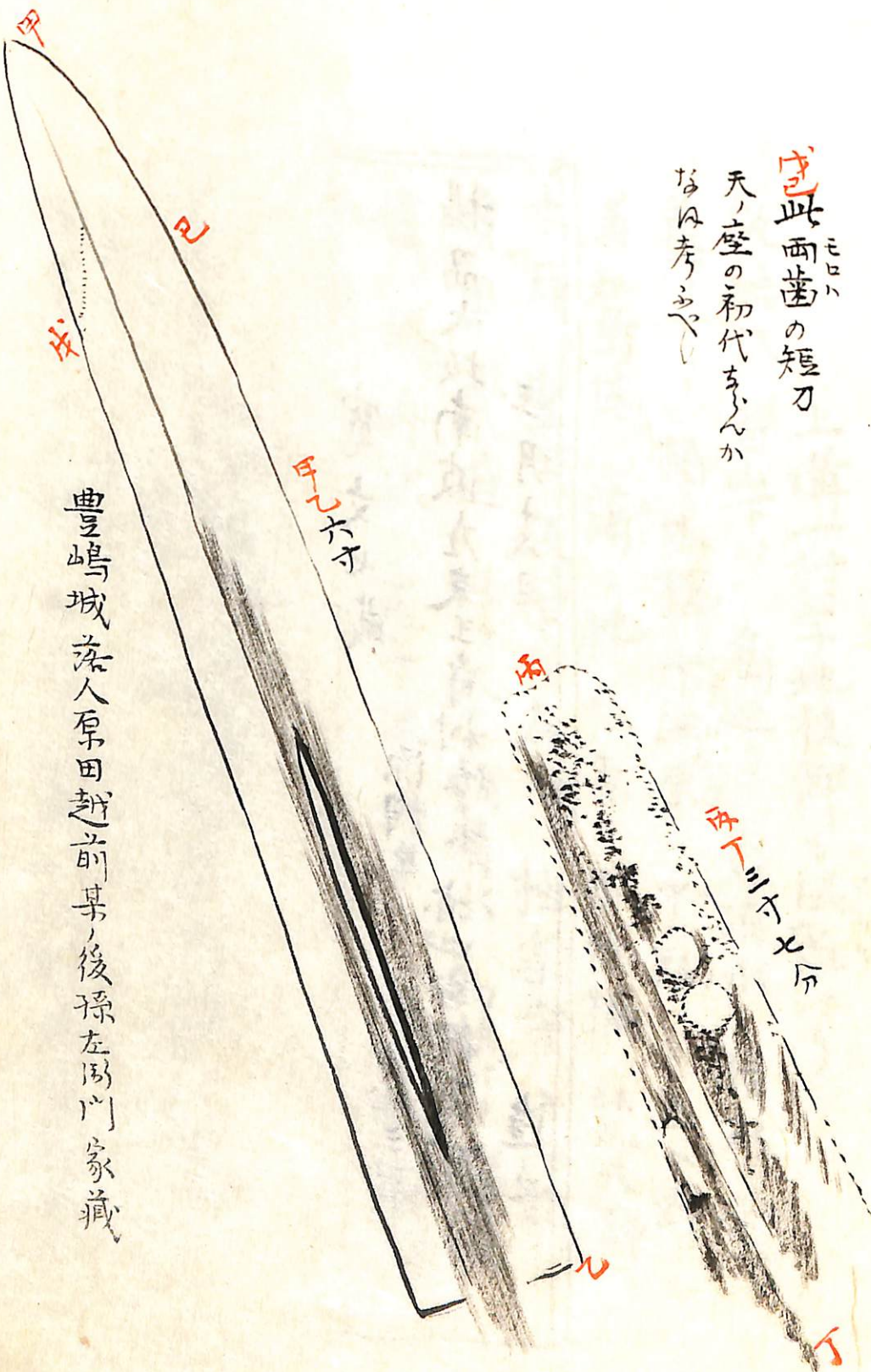
○新田開合記云下深井と落井、向中島あり、石川五郎注進りて奈開一と曰く、成りてむり、川無きと地形續あり故上溝の地形ありて百五十石の田開家二十軒斗りて惣長せが元文の頃より川筋狂之堰穴落畑と成て業ありかね思ひ、諸方へ行て今と孫助人上り居て渾を業とすといふなり

○本郷入會

○大正の本郷と赤沼嘉吉同久五郎とて東方の西家あり是上溝迄地へ

此兩箇の短刀

天ノ壁の初代まゝにか  
なぬ考ふべ



豊嶋城落人原田越前某ノ後孫左門家藏



或家佛像の背に在り

寛文七歳

源朝臣

四拾三歳

攝羽大坂南波在天王寺村佐木 亦四郎徑政廻

三月十八日

造之

○上溝一村字地枝郷マヅリ混雜マヅリなり

○後詰沢 ○白山下 ○島巡り ○岩清水 ○清水上

○墓下 ○橘木橋 ○下河原 ○中野 ○上野

○善知鳥橋 ○蒲池 ○松原 ○木伐橋 ○梵天野

○末野 ○堂田 ○坂下 ○石田 ○極楽寺 ○十二前

○境田 ○武道 ○杉沢 ○強清水 ○釣瓶下 ○櫻清水

○吉沢 ○舟沢 ○亀子沢 ○杉平 ○新屋敷 ○觀音寺

寺内

○戸数人馬負

○家負九十軒 ○人数四百四十人 二百六十六人男  
十三人三歳ヨリ

及七歳 九十四人  
十三人小供  
三歳ヨリ及七歳ナリ

○馬負九十八足 内三足二歳 二足駒  
一足駄 同二足脚見



捨馬二六足駒之

○二井山村

里長 重吉

○此邑本ト新山ありしも享保三年の始より二井山<sup>カキ</sup>作  
改<sup>カキ</sup>なり秋田郡上蛇川村の枝郷なり新山<sup>ニヤマ</sup>あり其外も二井  
山二井田ありといふなり郡邑記云「家数五十四軒南雄  
勝郡大沢内上法寺山、新山の竹、子沢と小野田長根路通、  
水落次第山境より見ゆ今と四十一戸ありて荒<sup>アキマシキ</sup>地多し同書  
支那二村水沢境田と見たり此境田敗<sup>クサ</sup>村と今上溝、觀音  
寺<sup>ノ</sup>山下<sup>タ</sup>田字子のといふ傳へ

○瑞雲寺

○龍澤山瑞雲寺、曹洞宗沼館村、青龍山東泉寺、赤山  
より平僧之開山と東泉寺、二世傳庵正法和尚之開基伝ふ不  
下縁と源氏の武士たり其ゆゑなり奥子<sup>シロイ</sup>記傳、寛永



八年辛未八月二十五日卒法名秋臨院瑞雲寺公居士とて

○慈眼院

○新光山慈眼院開基佐々木下総某同公東海上此  
碑寺内存在せし磨滅て其遷化の年を志し此等湯殿  
山一世別行の寺之北宗派多田瑞仲公男美女麻呂出家  
て陸奥国少林寺を建て圓覺坊といひて湯殿山の神を尊  
に朝夕いり奉りかゝる行人といふも圓覺法師を創  
ちせりこれば行人寺に出羽陸奥より多うふし今も久保田、  
不動院専藏院の配下

○雜事

○日宮山獄の麓山羊堂殿とて山羊常すすや教文石あり其  
下七瀧あり此水涿々上溝村の奥におくあり強清水  
強清水とて小松山  
水とて書て羽黒山

をまじめいり  
多うふし

より出て上溝の武道村に流れそあり二井の水

沃かり七瀧とて此水此より北河といふ其谷の松

原極赤館極とて極二つありぬこの極渡りて山越下雪

行ハ小瀧とふあり此小瀧の本をすく一丁をりもけ登ればか

力山羊の存の黒山石三十尋と高くそのもとよりこれ山といふ

落瀧つ七瀧とてぬ此より瀧の上より不動明王の祠あり此あり

り見るとさくらとてありそこよりすこし水上の方より休息をて都

原よりありしかるいそのゆるりもみお田とてあり瀧の上より小瀧あり

り其うちをまけ入れば松子老とてありそよりわかし佐々木下

総といふ浪人の娘のいこころよりありおろりといふ丁女父が耕とい

つればおろりいこころい出てある清水とて息い餉食の店なる

木の陰よりありあり山賊の出来て此丁女わたりたり逃い



とすれば相子ありてあづてふとあり叫びて下総栗畠の地を  
りておどろきぬその世ハ薩摩の山がふしの如く野太刀を横たへ  
耕りしをあるしとて浪人身あればつねにわねよきを佐へ木  
下総帯栗畑の肉より飛出さる山賊やうじと追ひつれば山刀を  
ぬいて丁女と一とさしつゝぬいて血刀やうてたちえど下総  
娘を介抱するもいさなりぬすく遠く去り下総ありく娘を骸  
を負ふてあつとやなりなちなりて後相子菩提  
とて寺を築きたつといふ今瑞雲寺これなりといふ

### ○十八坂由来

○このころある歳十八の女が山路を迷ひたるを山賊の  
来ていざあつと心をや志たひたりけん此少女よりあつて  
其死骸ハ腐り朽て骨のうしろに化て石となり其石を拾ひ

て殻とせりある燧石を人より火鑪石を方言よりとれば此山  
ある燧石を人より骨角とていふ十八角といふとある

### ○神社

○日宮山獄いらあ御神とぞいふ日少宮ハ淡海国多賀  
明神ともをせば此市神ある此獄に遷てあつて日少宮を  
省きとあつてある日宮ともをせしめあるやあるや仙北郡  
真畫筒高あり此山の日の中れば必ず刻とてあるとれば正畫  
獄のあり秋田郡阿仁郷ある是を畫様といひて耕のめを  
とせり此獄の地あり午時とある中ハ日宮山獄といふあり  
のらあ朝日山日宮権現ともをていふと藤原美光とて  
人の創といひある寶鏡山日宮神社と唱へまつりて美光  
といふ傳の春とある市神とていふとてその開闢の時世とある



和すとの人のいり七流を極く山<sup>い</sup>黒山石の上<sup>い</sup>鎮<sup>い</sup>  
聖山のあらふ

○山祇社 あり日宮<sup>エウカミ</sup>ありて十二月十日に村の人夜こ  
りして十二日<sup>ニ</sup>祭あり○日宮祭ハ三月、十五日に此善光<sup>い</sup>  
くある人々上溝寺<sup>テラウチ</sup>裡<sup>い</sup>邑<sup>い</sup>の善光堂といふ

○神明宮 輪田<sup>マセ</sup>といふなりといふ旧<sup>い</sup>みややありしを申<sup>い</sup>  
此神社不<sup>カシ</sup>津<sup>い</sup>た<sup>い</sup>りお<sup>い</sup>りよせ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>りの人<sup>カミ</sup>怨<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>り此春<sup>い</sup>  
此みやとあらむと方<sup>トコロ</sup>らうつとふんとそのま<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>せ

○和田<sup>輪田</sup>山長余寺十面大慈菩薩木像作<sup>い</sup>  
近郡六香順禮寺<sup>い</sup>の札所之六郡寺巡りの六香<sup>い</sup>雄  
勝<sup>い</sup>即<sup>い</sup>杉<sup>い</sup>宮<sup>い</sup>吉祥院之和田山長余寺<sup>い</sup>といふ大寺<sup>い</sup>や今  
木立<sup>い</sup>の<sup>い</sup>山<sup>い</sup>寺<sup>い</sup>跡<sup>い</sup>といふ<sup>い</sup>所<sup>い</sup>の<sup>い</sup>処<sup>い</sup>より<sup>い</sup>遷<sup>い</sup>した

寺々なるたつめ<sup>い</sup>祭<sup>い</sup>日<sup>い</sup>三月十七日  
十二月十七日

○薬師如來社 祭日四月八日 新光山慈眼院鎮守

○山王宮 祭日四月二日 龍澤山瑞雲寺鎮守

○段<sup>い</sup>長根<sup>い</sup>稻荷社 齋主 大塚甚太郎

○雷天<sup>い</sup>稻荷社 齋主 高橋與右衛門

○稻荷明神社 齋主 佐々木長次郎

○八幡宮 齋主 白田山藤兵衛

○熊野ノ社 祭日 枝歸水沃一村鎮守、御神<sup>い</sup>

○湯殿山三社 祭日 同水沃畠山市左衛門鎮守

○稻荷社 祭日 水沃村

○大日如來 祭日 同村



○枝郷水澤

○本ト境白水沢兩村の枝郷なり。おりの境あり。境田敗れ  
て今白水沢の水沢ハ本郷二井山より十八丁雲方七瀧と云  
を山路へ入る。郡邑記に家久七軒西矢島領由利郡元  
形村内、金御領黄蘗沢山長根通。水床次才峰境  
明暦元年未ノ年新山勘左衛門與惣左衛門申者引  
移り村娘と見えたり。今ハ大戸あり。これハ此邑明暦元年  
の始めり。て今河崎與惣左衛門畠山勘左衛門とて  
二井山移りの家あり

○舊家四戸あり 高野羊田奥山佐々木

○高野氏其上祖ハ紀國高野ト云ふ。来るより。こゝに傳へ  
其時代を云ふ。是ハ新山開創の家といふ。此を云ふより

泉の湧れば。そゝ栖人々。高野清水といふ。某世に家  
も代々。惣左衛門と云ふ。通るより。與左衛門といふ。尚代高野  
重吉とて里長たり。其清水のほとり。大木。杉の生ひたり  
し。ハ杉清水といふ。山一木あり。高野氏の旧宅ハ行人寺  
慈眼院。建て此寺と云ふ。二井山五泉の内

○羊田氏ノ祖ハ尾張國羊田といふ。や来り。此室暦の  
年。此家餘波あり。焼亡て家の古記録等。傳へ。其後  
今。七左衛門といふあり

○奥山氏といふ。旧ヨ家あり。序左衛門といふ。此天  
明ノ年。みふ死亡て。その。後。の水沢に在れば。そ  
を以て其旧家を興建んと里長のいふ

○佐々木氏下総。後胤。久左衛門といふ家あり。佐々木



下総ハ本<sup>シモツヰ</sup>下総<sup>リニハト</sup>の国人あふむるなり本名あざる  
 かしをいひて出羽國由理郡亀田に來て山石城<sup>イハシ</sup>に仕  
 へまた流<sup>ウカド</sup>浪とて上溝の木代<sup>キヤリ</sup>橋とてあふ<sup>カ</sup>極<sup>キョク</sup>て此新<sup>ニハ</sup>  
 山村<sup>ヤマムラ</sup>に來りぬ此村より人をもつて愚民<sup>カヨカ</sup>も老<sup>オシ</sup>の<sup>オシ</sup>を  
 の佐々木下総を何事ともんべ力と頼て住たりし  
 と何ふ尚<sup>イ</sup>時<sup>トキ</sup>のさ、木久を風門ハ多田満仲新發意、  
 佐々木頼茂公も十六代とて佐々木孫次郎頼  
 重佐々祿兵衛頼勝さ、木金想頼光下総と此頼光  
 の男も此家系譜の末に永禄元年と記たり近<sup>キ</sup>世  
 まて武具あはれ持たりしが松前さるのよ記賣<sup>ウ</sup>拂  
 いといふ

甲 日宮ノ神門  
 乙 旭嶽  
 丁 山神社  
 戊 神階  
 己 強清水川  
 庚 松原橋



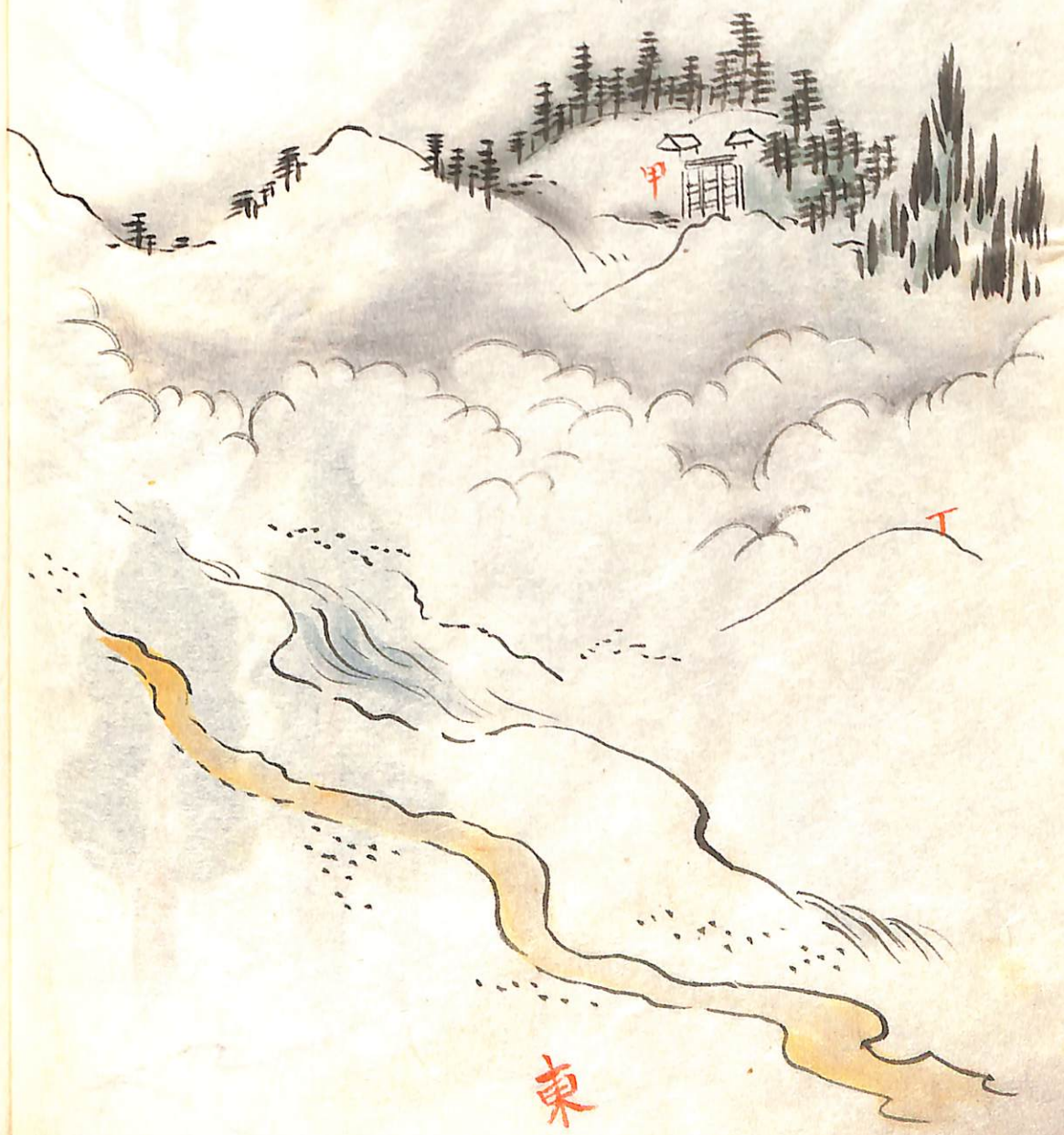


ナリキカク  
七瀬回  
甲日ノ宮  
乙山神社  
丙不動明王社





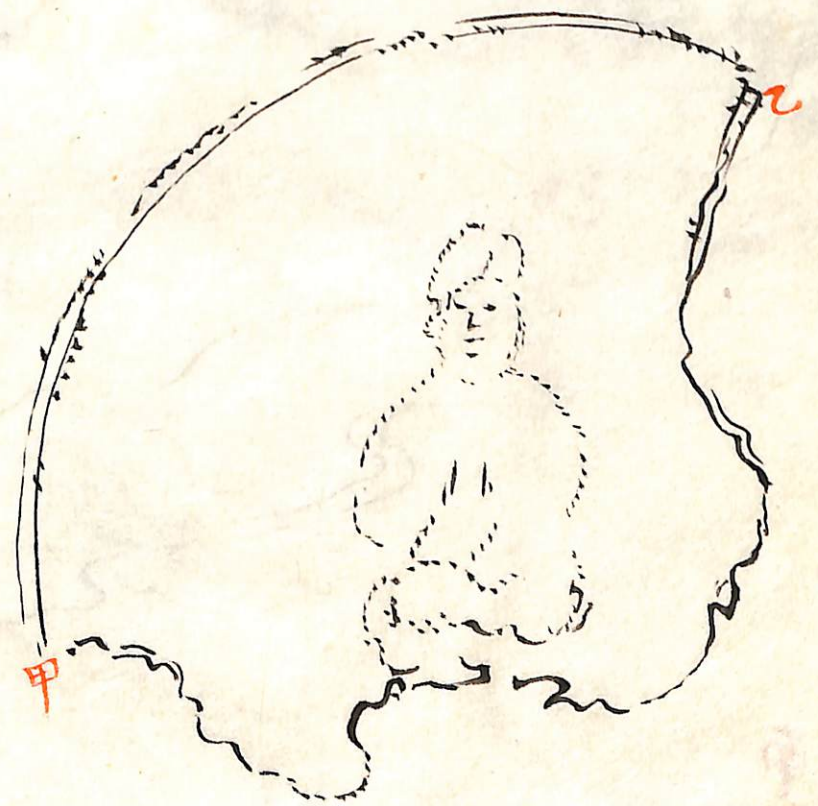
甲釣瓶山乙白洲  
 丙娘々懐丁松子臺  
 戊源内沃己紫坂





新光山慈眼院藏

大日如來ノ御正体鐵ノ  
鑄物<sup>毛</sup>一亘凡五寸位  
回祿ノ後夢想ニヨリ  
土中ヨリ掘出スルヲ



二井山五泉

○高野<sup>ヤウヤ</sup>清水此寒泉ハ高野孫左衛門の旧宅の泉ありし  
今慈眼院前ニ付いてよりよきあり

○羊田清水 羊田七左衛門が境内ニ此寒泉ありき  
此の石の石をいりて志づの山といふあり

○真箇<sup>マカダ</sup>内清水 此寒泉二井山おの二三町南北方大深  
道の傍に存して泉を往來たすけとあり

○松子臺清水そのあり 松子とて名あり此清水の  
もとて餉<sup>カシ</sup>くみききなりなり山<sup>ヤマ</sup>の捕<sup>ト</sup>りしものなり  
前よりつむるなりといふあり

○杉根の清水 大杉のもとより湧づ此泉のありき今  
水涸るといふ此泉のありきといふ村にあり



水田字

家ノ下ノ ざろの沃 小ざろの沃 石井田 穴陸の前  
中田面 坂の下 道祖神 坂本 豊ヶ沃 和田  
北川と小川のまじりて奥山よりた田門よりふ家あり一  
あらひけ水は底をうつり天明のころ其後絶たるといふ 堂の下  
塚の下 入定の塚より生塚よりふ大 蕨田 極楽寺田 新  
田ノ沃 境田沃 小坊ヶ沃 廣田面 竹の子沃 切欠ヶ  
田 小沃口 雀田 礎田 野沃 真ヶ田 福田  
西の沃 東の沃 ぬくろ沃

山字地

境長根 野郎ヶ沃 牛谷地ヶ沃 級木沃 蒲臺道  
葛原山 黄蘗山 十二坂 ちくろ沃 杉の平 うちか  
ふところ 山葵沃 比つたての沃 安所  
こい政所を訛傳ふ雄勝や上法寺近くは字

あれは古寺の政所の跡をうんとおしりんち 大石ヶ沃 杉子臺 息石 小

ね山沃 八瀬長根 赤館平 行い嶽 小  
猿ヶ沃 若林山 内山 十八坂 小沃 小みの  
木沃 横道ヶ沃 志くら七瀬

狐の名

小沃のおまつこ 和田のあらぎつね 豊くら沼のどがうこ  
うけりあさまつねのなともあり



佐々木下総家系

源氏繼圖

● 人皇五十五代皇文德天皇第二皇子也

天安二戊寅年源氏ノ姓ヲ給之

● 清和天皇 ● 貞純親王始源氏賜姓四品式部卿

● 經基六孫王下申也 ● 多田瑞仲新癸意下申之

賴義 伊豫守 義家八幡太郎

義常遠江守

政經下野守



經兼遠江守

義定

義昌

義繁

明時

武田次郎

泰國

畠山上総介

京極修理殿

秀愛

義胤

賴氏

義經

遠江守

義能

義安

伊豫守

康氏

宮内權少輔

和光寺殿

賴氏 治部大輔

賴茂 佐々木先祖



義頭 洪月先祖

家氏

定景

義光

義元

義高 大納言

義教 右大臣

基氏 左大臣

義満 右大臣

報國寺殿

佐々木孫次郎次男

頼重

足



佐々木 彌兵衛 五男

賴勝

山

佐々木 次男 金想

賴光

山

永禄元年甲申六月吉日

此終ニ永禄元年甲申ニ至リ

永禄元年ハ戊午ニ甲申ハ永禄三年ニ至リ

愚筆

鎌田左近



永祿五年...  
地...  
...



○二井山邑

- 家員四十戸同枝郷水沢十戸 禪寺一ヶ寺
- 行人派一ヶ寺 合五十二戸之
- 人数二百七十七人
- 馬員三十八足之



三員三十八元二

八員二百七十八

元入創一十元

合五十二元二

同林州外入十元

縣署一十元

二林山邑



